

私はこの研修の申し込みをしたのが歯科衛生士になって3ヶ月のことでした。

私は2015年の4月から日吉歯科診療所のU20部署に所属しています。もともと自分が小さいころから日吉歯科に患者として通っていてカリエスフリーを維持しています。そして自分の歯がなにより自信を持てるところだったので、そんな理由で歯科衛生士になりました。

私がしてもらってきたように、私もこれから患者さんたちの健康を守っていきたくて入ったときから考えていました。しかし、自分の思いとは裏腹に、技術や知識の足りなさを痛感する日々でした。そしてさらに、20歳以下の小児の患者さんたちを対象としているU20の私の仕事ではカリオロジーが基本となります。しっかりと学んで小児の患者さんたちのためにいかしたい、また歯科衛生士としてこれからもっと自分に自信をもちたいと思い、参加を希望しました。とは言ったものの、あまり臨床経験もない私はしっかり学んでこられるかすごく心配でした。しかし実際にマルメへ行ってみたら全く逆で、はやい段階でこの研修に参加し、本場の予防歯科医療を肌で感じてこられたこと、本当によかったと思います。そしてこの研修に参加したことで、私はこれからどういう歯科衛生士になりたいのか、自分自身ビジョンがはっきりと見えてきました。

ダンエリクソン先生がおっしゃっていた「歯科医師は患者の歯を治すのではなく脳を治すのだ」という言葉はすごく印象的でずっと心に残っています。生活習慣を変え、口腔衛生を変え、歯に対する価値観を変え、病気にならないようにするすべを患者自身に身につけさせ、考え方を変えること。これは本当に脳の治療です。患者さんをみたとき、目の前のことだけで判断したり、その場限りの治療を行ったりするのではなく、患者さんの将来を見据えて、どうしたらこの患者さんが健康に暮らしていけるかを考え、リスクアセスメントを行うこと、毎日日吉歯科での診療の中で当たり前に行われていることだと思いました。そんな医療を院長やふじ子先生、多くの日吉歯科のスタッフのみなさんはずっと前から学び、勉強を重ね、そして自分は小さいころからその医療を受けていたのかと思うとすごく幸せに思いました。そしてやっぱり私がしていたように、私も次の世代へ返して、患者さんの生涯の口腔の健康維持に貢献していきたいと強く思いました。

日本とスウェーデンは国民の意識や国の政策からして違います。だからといって日本で予防は難しいというわけではありません。日本の予防に対する意識の低さ、そして帰ってきてみてやっぱり「歯だけを治す」歯科医療者が日本に

多いことがすごく残念です。しかし、国民全体の歯科への意識が低い分だけやっぱり一人一人のリスクを把握し、分析してフォロー、教育していくことは健康を維持する上で必要不可欠だと思います。本来の歯科医療のあり方を痛感し、このままではいけない、自分は絶対に歯科衛生士のライセンスがある以上患者さんのためになる仕事がしたいと思っています。そしてまた、その思いがいかせる診療所にいさせてもらえることにすごく感謝します。

だから私は患者さんの健康を支えていけるような衛生士になろうと思います。そのために今後、知識と技術の向上を日々はかっていきたいです。歯科衛生士になってよかったです。そしてなったからには自分が納得がいく仕事ができるようこれから頑張っていこうと思いました。貴重な体験ができて本当によかったです。